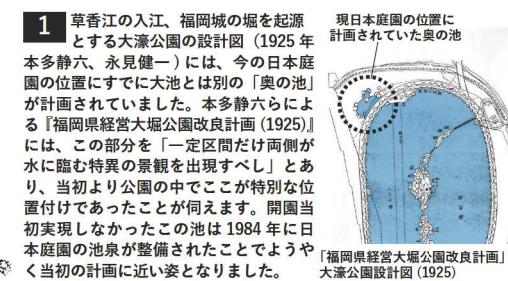


# みぎわの庭、 くくりの ミュージアム

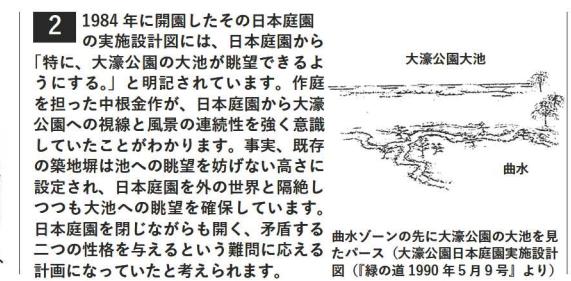
日本庭園の環境を守りながら、  
大濠公園へとひらく

福岡市総合計画課  
福岡市総合計画課  
福岡市総合計画課



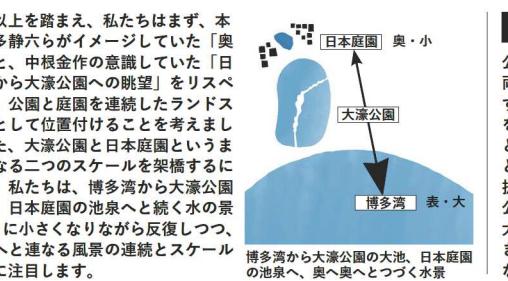
**1** 草香江の入江、福岡城の堀を起源とする大濠公園の設計図（1925年）本多静六、永見健一）には、今の日本庭園の位置にすでに大池とは別の「奥の池」が計画されていました。本多静六によると「福岡県經營大濠公園改良計画（1925）」には、この部分を「一定区間だけ両側が水に臨む特異の景観を出現すべし」とあり、当初より公園の中でこれが特別な位置付けであったことが伺えます。開園当初実現しなかったこの池は1984年に日本庭園の池泉が整備されたことでようやく当初の計画に近い姿となりました。

福岡県経営大濠公園改良計画により、大濠公園設計図（1925）



**2** 1984年に開園したその日本庭園の実施設計図には、日本庭園から「特に、大濠公園の大池が眺望できるようになります。」と明記されています。作庭を担当した中根金作が、日本庭園から大濠公園への視線と風景の連続性を強く意識していたことがわかります。事実、既存の築地堤は池への眺望を妨げない高さに設定され、日本庭園を外の世界と隔離しつつも大池への眺望を確保しています。日本庭園を閉じながらも開く、矛盾する二つの性格を与えるという難題に応える計画になっていたと考えられます。

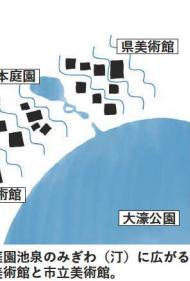
日本庭園実施設計図（『録の道 1990年5月号』より）



**3** 以上を踏まえ、私たちはまず、本多静六らがイメージしていた「奥の池」と、中根金作の意識していた「日本庭園から大濠公園への眺望」をリスペクトし、公園と庭園を連続したランドスケープとして位置付けることを考えました。また、大濠公園と日本庭園といふて異なる3つのスケールを架橋するにあたり、私たちは、博多湾から大濠公園の大池、日本庭園の池泉へと続く水の景が、順々に小さくなりながら反復しつつ、奥へ奥へと連なる風景の連続とスケールの横断に注目します。

日本庭園の池泉のみぎわ（汀）に広がる水紋のよう

に広がる波紋のようにミュージアムが日本庭園に寄り添います

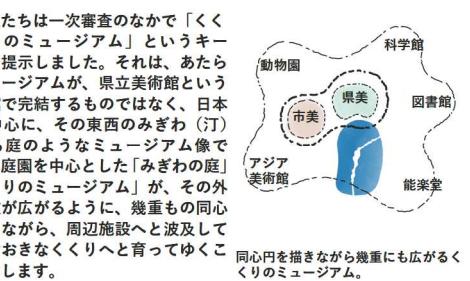


**4** 日本庭園を大濠公園の「奥」と位置付ける。その奥の池泉から大濠公園に流下する水の景を挟んで、東西の両側をみぎわ（汀）の庭として設計する。すると日本庭園から大濠公園に抜ける景を保全しつつ、日本庭園が県立美術館と市立美術館をつなぎ、日本庭園を中心としたミュージアムといふ「くくり」と捉えることができるのではないか。大濠公園（＝表）から日本庭園（＝奥）へ、だから小ヘスケルを横断するひとつづきのランドスケープが実現できるのではないかと考えました。

日本庭園の池泉のみぎわ（汀）に広がる

波紋

同心円を描きながら幾重にも広がるくくりのミュージアム。



**5** 私たちは一次審査のなかで「くくりのミュージアム」というキーワードを提示しました。それは、あららしいミュージアムが、県立美術館といふ閉じた館で完結するものではなく、日本庭園を中心とした「みぎわの庭」＝「くくりのミュージアム」が、その外周に波紋が広がるように、幾重もの同心円を描きながら、周辺施設へと波及してゆく、おおきなくくりへと育ってゆくことを期待します。



**A: 切通し**  
既存樹木が棘になっている部分をねらい、ミュージアムと日本庭園を繋ぐ切通しを整備します。切通しにはモミジ類を植え、彩のあるシーケンスをつくります。

**【上池ゾーン】**  
既存樹木を保全しながら、樹木の生育、風通しに配慮しながら適切に剪定します。

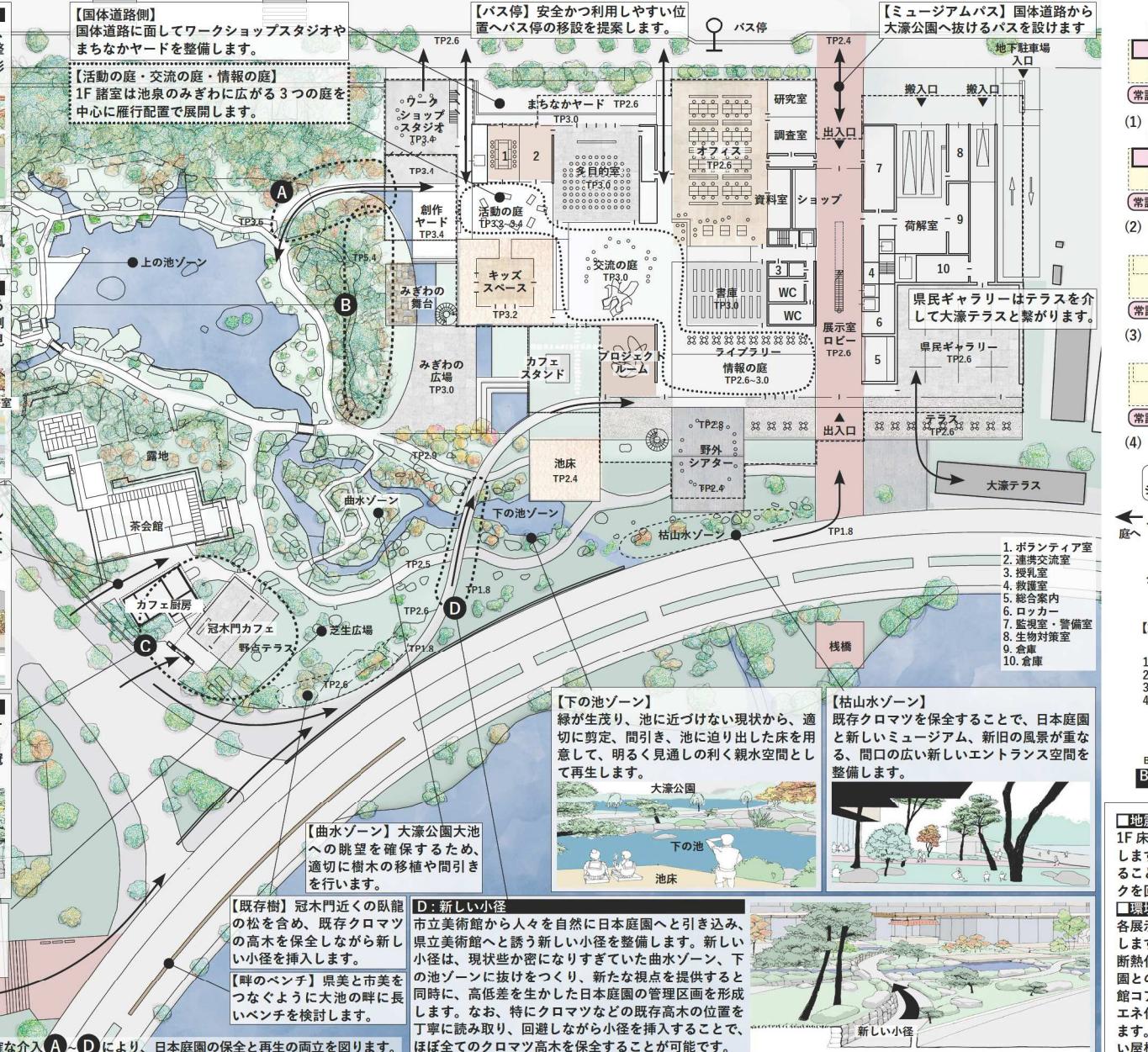
**B: 見え隠れのスクリーン**  
下部の生垣を取り除き、落葉中木を植樹することで、日本庭園の環境を守りながらも池側からミュージアムの雰囲気が垣間見える「見え隠れのスクリーン」として整備します。

**【日本庭園エントランス】**  
既存の冠木門を新しいカフェのエントランスとして再生するため、代わりに茶会館と旧事務室の間に日本庭園への新たなエントランスを整備します。

**【冠木門カフェ】**  
茶会館や芝生広場を使ったレセプションパーティー、MICE利用の際にケータリング拠点としても使えるカフェを整備します。既存冠木門は新しいカフェの顔として活用します。

**【芝生広場】**  
開園当初より野点利用が想定されていた芝生広場は、カフェと一緒に整備することで、野点に適した設えへと再生します。

**【冠木門カフェ】**  
茶会館や芝生広場を使ったレセプションパーティー、MICE利用の際にケータリング拠点としても使えるカフェを整備します。既存冠木門は新しいカフェの顔として活用します。



**【国体道路側】**  
国体道路に面してワークショップスタジオやまちなかヤードを整備します。

**【活動の庭・交流の庭・情報の庭】**  
1F諸室は池泉のみぎわに広がる3つの庭を中心に行き来できます。

**【上池ゾーン】**  
既存樹木を保全しながら、樹木の生育、風通しに配慮しながら適切に剪定します。

**【見え隠れのスクリーン】**  
下部の生垣を取り除き、落葉中木を植樹することで、日本庭園の環境を守りながらも池側からミュージアムの雰囲気が垣間見える「見え隠れのスクリーン」として整備します。

**【日本庭園エントランス】**  
既存の冠木門を新しいカフェのエントランスとして再生するため、代わりに茶会館と旧事務室の間に日本庭園への新たなエントランスを整備します。

**【冠木門カフェ】**  
茶会館や芝生広場を使ったレセプションパーティー、MICE利用の際にケータリング拠点としても使えるカフェを整備します。既存冠木門は新しいカフェの顔として活用します。

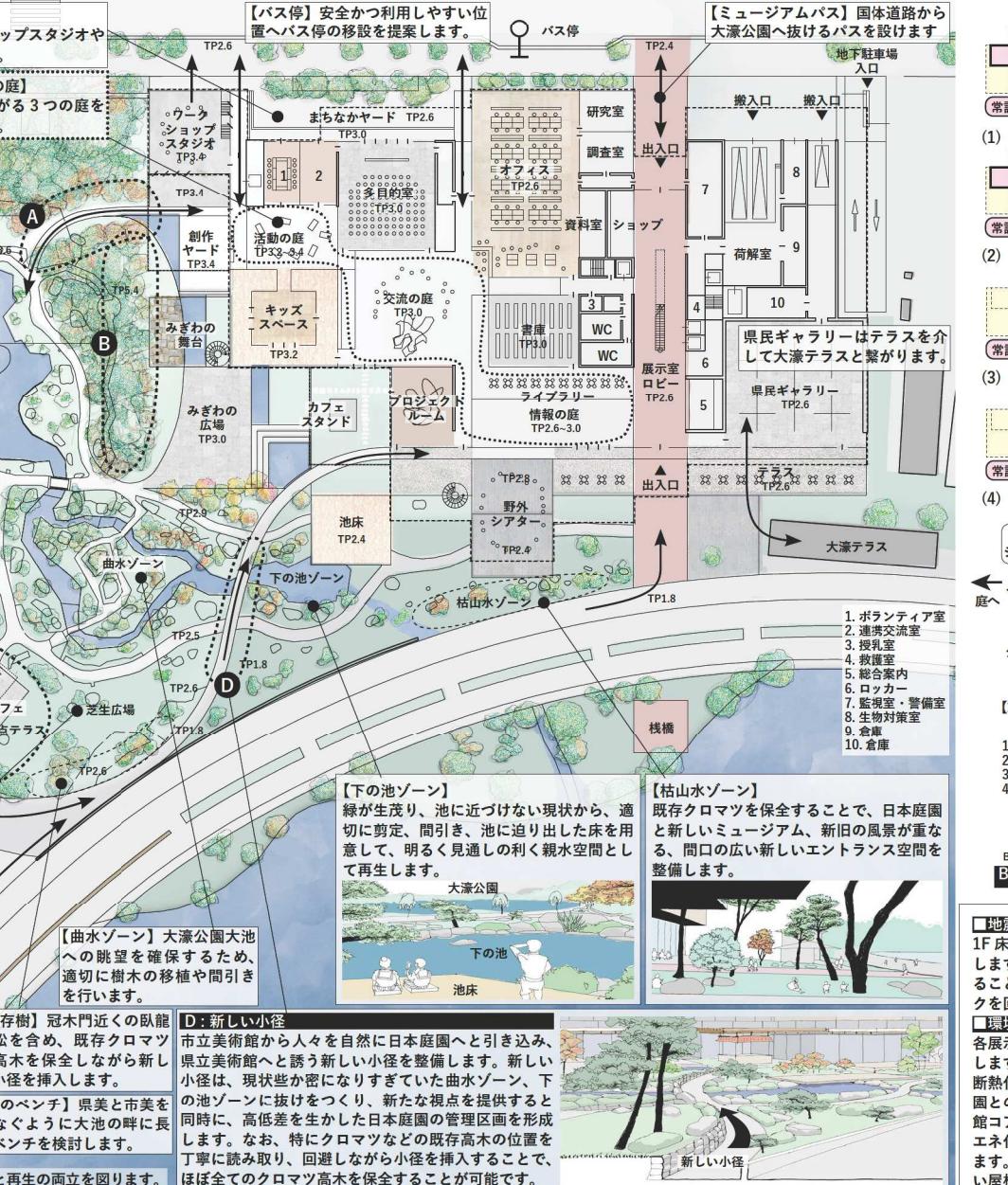
**【芝生広場】**  
開園当初より野点利用が想定されていた芝生広場は、カフェと一緒に整備することで、野点に適した設えへと再生します。

**【冠木門カフェ】**  
茶会館や芝生広場を使ったレセプションパーティー、MICE利用の際にケータリング拠点としても使えるカフェを整備します。既存冠木門は新しいカフェの顔として活用します。

**【芝生広場】**  
開園当初より野点利用が想定されていた芝生広場は、カフェと一緒に整備することで、野点に適した設えへと再生します。

**【冠木門カafe】**  
茶会館や芝生広場を使ったレセプションパーティー、MICE利用の際にケータリング拠点としても使えるカフェを整備します。既存冠木門は新しいカフェの顔として活用します。

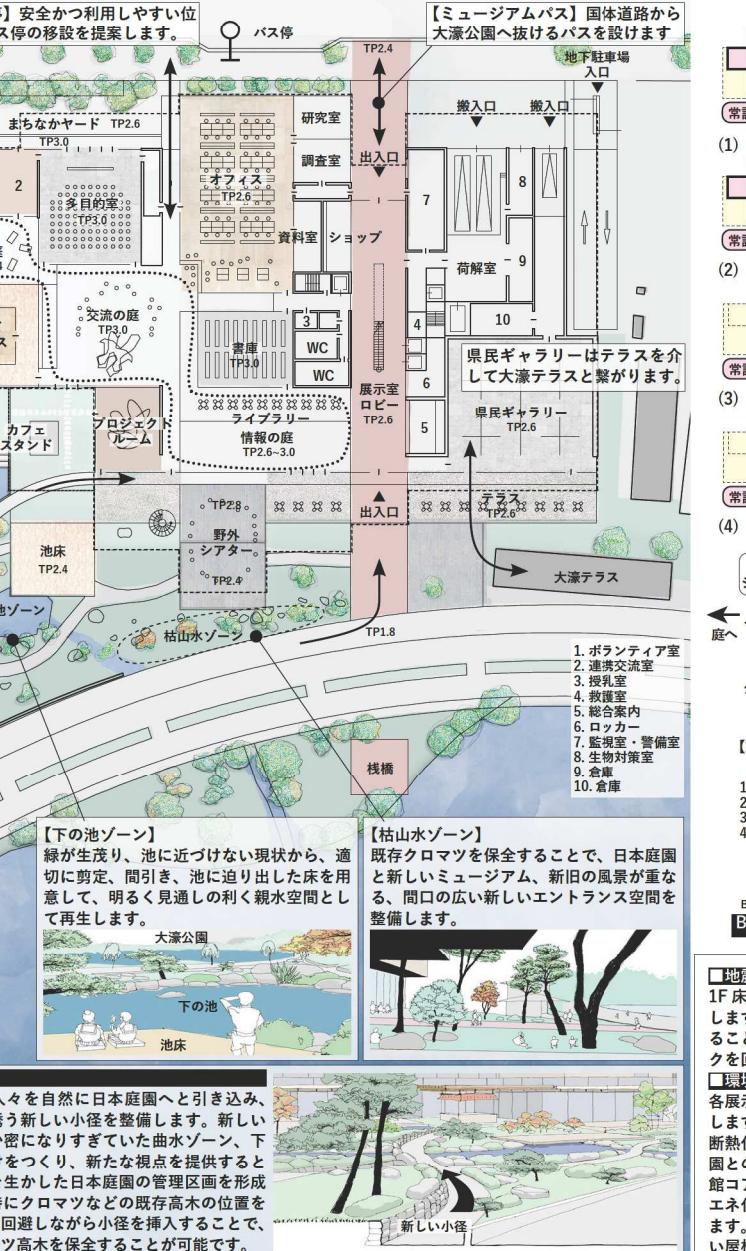
**【芝生広場】**  
開園当初より野点利用が想定されていた芝生広場は、カフェと一緒に整備することで、野点に適した設えへと再生します。



**【バス停】**  
安全かつ利用しやすい位置にバス停を移設します。

**【ミュージアムバス】**  
国体道路から大濠公園へ抜けるバスを設けます。

**【展示室】**  
常設展示室を中心とした「展示室」を設けます。



**【展示室】**  
常設展示室を中心とした「展示室」を設けます。

**【展示室】**  
常設展示室を中心とした「展示室」を設けます。

**【展示室】**  
常設展示室を中心とした「展示室」を設けます。

**【展示室】**  
常設展示室を中心とした「展示室」を設けます。

**【展示室】**  
常設展示室を中心とした「展示室」を設けます。

**【展示室】**  
常設展示室を中心とした「展示室」を設けます。